

第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会（第25期・第6回）

議事要旨

1 日 時 令和3年4月20日（水）19:30～22:30

2 会 場 ビデオ会議

3 参加者(敬称略)

分科会委員：相澤彰子、秋葉澄伯、石川冬木、岡本尚、郡山千早、
小松浩子、高井伸二、高倉弘喜、中川晋一、糠塚康江、
平井みどり、三嶋廣繁（委員13名中12名出席）

オブザーバー：上原哲太郎、加藤茂孝、神田玲子、杉山雄大
武田洋幸、丹下健 下條眞司 福井由宇子

講演者： 林和弘

コメンテーター： 引原隆士、中川晋一

事務局：穴山

4 議 事

(1) 学術フォーラムについて

日本学術会議主催の学術フォーラム、シリーズ「コロナ禍と共に生きる」の一部として「新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown」（日本学術会議・日本医学会連合主催）が開催される。

第一回として「新型コロナウイルスワクチンと感染メカニズム」が開催される。

日時：2021年5月8日（土） 主催：日本学術会議、日本医学会連合

公式HP：<http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/309-s-0508.html>

ポスター：<http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf3/309-s-0508.pdf>

コーディネーター：

名越澄子（日本医学会連合理事）

北川雄光（日本医学会連合理事）

丹下健（日本学術会議第二部副部長）、

秋葉澄伯（日本学術会議第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会委員長）

シリーズ「新型コロナウイルス感染症の最前線 - what is known and unknown」の今後の予定：

第二回 新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性（仮題）

9月初旬開催予定、コーディネーター：尾崎紀夫第二部幹事

第三回 新型コロナウイルス感染症はどこまでわかったか？（仮題、詳細未定）

コーディネーター：丹下健第二部副委員長

第四回 ウイルスとヒトとの攻防戦の科学（仮題、詳細未定）

コーディネーター：神田玲子第二部幹事

(2) コロナ禍でのオリンピック・パラリンピック開催に関する検討内容

健康生活科学委員会の下ワーキンググループでスポーツ健康科学のメンバー等

「コロナ禍でのオリンピック・パラリンピック開催」に関する検討内容に関し、小松浩子健康生活科学委員会委員長（当分科会委員）から、当分科会に対し意見伺いがあり、当分科会で議論を行った。

① この問題に関し、事前に、秋葉委員長より委員に以下の私見が送られた：

IOCは選手に対しワクチン接種を勧奨している。しかし、英国でさえ、選手全員にワクチンを二回接種できないと言われている。米国は選手に対しワクチン接種を義務付けしないと報道されている。

オリパラでの国威発揚を重視する国は、選手団のワクチン接種を重視する可能性があるが、世論が選手・スタッフ優先を許さない国も多いと思われる。ドイツとオランダは選手を優先しない方針である。日本も選手に対し優先的にワクチン接種を実施できるか疑問がある（多分、優先できない）。

ワクチン接種をしない選手（とスタッフ）は、二週間隔離の上、毎日2回のPCR検査を求められる。選手以外の選手団メンバーは4万人程度か？彼らのワクチン接種率は選手より低くなる。

仮に9割がワクチンを受けていたとしても残りの1割4000人に対し、毎日2回PCR検査をすることになる。現在、わが国のPCR検査数は毎日5万から10万人である。全体としては余裕があるが、もし、オリパラ開催時期と東京での流行拡大時期が重なるとキャパが足りなくなるかもしれない。

五輪の選手村では選手ら約6万人が交流すると言われている。仮に選手村で患者が出た時、日本政府は患者を隔離・治療を行おうとするだろうが、各国の選手団はどのような対応をするか懸念がある。

米国は自国民を日本国内の米軍基地・大使館・領事館など、他の先進国は自国の大使館・領事館で治療することを求める可能性があるのではないか。そのことで、主要国が日本の保健・医療体制に懸念を抱いていることが明らかになる（ダイヤモンド・プリンセス号の件ですでに明らかになっていると言った方が正しいかもしれないが）。

国内世論の反応はともかくとして、主要国以外の選手団が動揺し、日本政府の要請に従わないで独自の対応を探り出し、混乱を招く可能性がある。

選手に感染者が一人でも出た場合、その競技は中止になると思われる（競技によっては当該種目だけが中止になるかもしれない）。複数の競技で感染者が出た場合、大会そのものを中止とすべきとの議論が沸き上がるものと思われる。幾つかの競技・種目が中止

に追い込まれたら大会を中止とするか、予め決めておくべきではないか（異なる競技に属する三つ以上の種目が中止に追い込まれた場合、大会を中止せざるを得ないのではないか？）

大会が中止となった場合、選手団の帰国を急ぐ国と、日本での2週間程度の待機を求める国があるのではないか？対応準備のために予め各国の希望を聴取しておく必要がある。

大会中止、競技中止、競技終了などの理由で、選手とスタッフが急いで帰国することを求める場合に備えた準備はできているか？（選手村等から空港への輸送体制、空港での待機部屋、ワクチン接種を受けた対応スタッフなど）。選手村での待機を希望する場合の対応も考えられているか？

事前合宿は殆どが中止、あるいは短縮となると思われる。しかし、事前合宿が実際される場合、ホストタウンで対応に当たるスタッフのワクチン接種を実施できるか？

② 当分科会での議論

- ・日本学術会議において、新型コロナウイルス感染症をめぐる議論について、並列して動く分科会との関連も考えれば、オリンピック・パラリンピック開催に関する議論に当分科会が発言すべきなのかという点で違和感がある。
尤も今回の日本の経験や対応を国際社会、後世に伝え総括するのもこの分科会の役割であろうかと思う。（岡本）
- ・開催するならば、一番立場の弱い選手のために何ができるか、という意見と、公衆衛生の立場からとのバランスを考えるのが日本学術会議の立場であり、開催するための客観的、科学的根拠に基づく勧告が必要だろうと考える（中川）。
- ・国内の議論も割れている中で、開催する場合のデータを整理提供するというのは批判をよぶ可能性もある。そもそも議論すべきではないという意見も理解するが、この分科会はフリーな議論ができる重要な場であり、本来の任務ではないということを考えれば、最悪のシナリオを考えておき、どのような問題になるかを議論し記録として残しておくということによって責任を果たす、ということではどうか（秋葉）
- ・スポーツ科学分科会で論議している。情報がないうちで、一つの分科会では議論しきれず、様々な観点からの議論をまとめ、記録として残していくことが良いのではないかと思う（小松、武田）

5 報告事項

(1) コロナの特設ページ新設の件

日本学術会議の活動についてHPに散在しているリソースを一本化した。

内容は ・今後のイベント ・過去のシンポジウム、フォーラムのリスト
・各分科会情報 ・日本学術会議のこれまでの取り組み
・第24期の対談動画へのリンク 等々

まだ第一歩と考えているので、引き続き意見を募りたい（武田）。

各委員からの意見：

- ・日本のコロナ感染の現状を海外発信するHPと新設HPとの区別につき、英語で発信する使命が終わったというのであれば、新設HPへの一本化には異議なし（石川）
- ・各都道府県データの差異に関しメッセージを発する必要性等はあるかもしれないが、都道府県別情報のメンテナンス含め仕事量を把握したうえで、継続かどうか、再考の余地はあるだろう（秋葉）
- ・日本学術会議の我が国の政策への貢献、国民への情報提供、国際的情報交換のハブになるという存在意義があると思うので、特に異議なし（岡本）
- ・各都道府県での統一性がないという問題、プライバシーの侵害等の危険性も考えれば一旦は発信停止。統計データについてはいずれ纏める必要あり（中川）。

（２）次回第7回分科会

講演者：北野 宏明氏 日時：2021年5月18日 19:30～

6 講演と質疑

演目：「COVID-19が加速するオープンサイエンスから見通す研究活動、
研究成果公開の未来」

講演者：林 和弘氏（日本学術会議特任連携会員、文部科学省科学技術・学術政策
研究所データ解析政策研究室長）

コメンテーター：引原隆士氏（日本学術会議特任連携会員、京都大学大学院工学研究
科教授・京都大学図書館機構長・附属図書館長）

中川晋一氏（日本学術会議連携会員、大規模感染症予防・制圧体制
検討分科会委員）

概略：

- ① ICT の発展・学術情報流通の変革と経歴
- ② 自己紹介・オープンサイエンス政策への貢献と実践、
・科学技術予測調査に関して
- ③ オープンサイエンスの歴史的必然性
 - ・歴史から紐解く科学や社会のオープン化
 - ・新たなオープン化に基づく社会制度と方針と運用の再デザイン、
 - ・COVID が加速した分野横断研究、多次元で多発な科学研究の変容
- ④ 電子化からデジタルトランスフォーメーションする学術情報流通
 - ・プレプリントサーバー（PS）の進展
- ⑤ 研究成果と研究インパクトの多様化と多次元化

- 研究データの世界的潮流
 - 研究データ基盤整備とオープン&クローズ戦略
- ⑥ 参考：変化の兆しに具体的に対応するには
- 研究者・学会、学術ジャーナル編集者として当面気をつけること
 - すぐに役立つ研究データ管理
 - 日本の政策の動き
 - arXiv 掲載のプレプリントの動向と可能性について。

— 以上 —